牛でつながる「酪」と「農」

吉田牧場代表　吉田拓洋（たくひろ）さん（39）

「酪農」と「農業」の連携

地域を元気にする個性的な農業に取り組む農家や団体を表彰する「第3回丹波農業グランプリ」（主催・丹波農業グランプリ実行委員会）が行われ、青垣町惣持で酪農を営む「吉田牧場」が、グランプリを受賞しました。

吉田牧場では、農家に牛のエサを生産してもらい、その代わりに、酪農で出た牛のふんなどを堆肥にして提供する取り組みを3年前から続けています。地域の農家との連携を大切にしている点などが評価され、今回の受賞につながりました。

地域をつなげる存在

「牛ふんの有効利用を考え、近隣の農家の方に協力をお願いしたところ、快く協力していただくことができました」と代表の吉田拓洋さん。「農家の方々にとっても、自分たちがつくったエサを食べて牛たちが育つ姿を見ることはうれしいようで、中には、お孫さんを連れて牛を見に来られる方もいるんですよ」と笑顔で話してくれました。

これからも、地域の人たちと協力しながら牧場を続けていきたいという吉田さん。地域のみなさんの愛情をたっぷり受けて育った牛たちは、地域をつなぐ大切な存在となっています。

吉田牧場では、牛ふんから堆肥を製造。さらに、堆肥を畑にまく作業も請け負っています

凛々しく登場！織田信包（おだのぶかね）像

柏原ライオンズクラブの会長ら関係者が集まり、信包像の除幕式が行われました

柏原ライオンズクラブが設立50周年記念事業として、市に柏原藩初代藩主 織田信包像を寄贈しました。

3月4日（火）には、柏原歴史民俗資料館横の庭園で、石像の贈呈式が披露されました。

凛とした風格のあるこの石像。地元の歴史上の人物を知るきっかけになるとともに、市の新しい観光名所となることが期待されています。

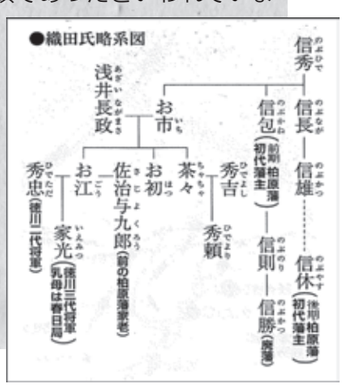
ご存じですか？織田信包

織田信包は、柏原藩初代藩主にして、織田信長の実弟にあたる人物です。

数々の戦で功績をあげ、信長からの信頼も厚い織田軍団の重鎮であったといわれています。

近江小谷城の浅井長政を討伐した際には、長政の妻であった妹の市、その娘の茶々、お初、お江を保護したことでも知られています。

●織田氏略系図



全長９ｍの全身骨格模型が出現！

竜脚類展を開催します

丹波竜と同じ竜脚類の「アマルガサウルス」と「カマラサウルス」の全身骨格模型などを展示します。全長９ｍの「アマルガサウルス」の迫力をお楽しみください。

■とき / 3月21日（金）～5月18日（日）
■ところ / 丹波竜化石工房ちーたんの館
問 恐竜を活かしたまちづくり課（ちーたんの館内）☎77－1887

大迫力の「アマルガサウルス」全身骨格模型

ディスカバー！丹波のきらめき企業 Vol.36

［会社概要］
■所在地　株式会社　武菱　丹波工場　丹波市氷上町常楽689－1
■電話番号　78－9696
■FAX番号　78－9477
■ホームページ　http://www.takebishi.jp
■主な事業内容　昇華プリント業・ＯＥＭ事業
■従業員数　5人

株式会社　武菱 丹波工場

今回は、昨年11月に仮操業を開始した、㈱武菱 丹波工場を訪問しました。工場は、市役所本庁舎のすぐ近くに立地しています！

★お客様が安心できる会社をつくる

大阪市に本社があり、昇華プリント業を営む㈱武菱。「お客様が安心して取引を続けられる会社にする」という社長の思いから、同社は、東南海地震の発生に備え、生産拠点の一部を安全な地域に移転させようと新たな立地場所を探していました。そんな時、知人からの紹介で昔から地震が少ない丹波市を知り、氷上町常楽に新工場開設を決定しました。

★特許を取得したPROX加工

昇華プリントは、デザインを紙に印刷し、印刷した紙に生地を合わせ、熱と圧力によりデザインを生地に浸透させるプリント方法で、その生地は、主に衣料品に使用されています。以前は、プリントできる生地はポリエステル製に限られていましたが、同社は、事前に特殊な処理を行うことで、綿、本革、デニムなど、天然素材の生地にも昇華プリントできる独自の技術「PROX加工」を開発しました。平成24年1月には、この技術で特許を取得。プリントできる素材の幅が大きく広がりました。また、従業員がオリジナルデザインを開発している点も同社の特色です。

★丹波工場で事業拡大

今後、丹波工場での生産拡大を計画している同社。湯浅工場長は、「たくさんの若者を採用し、地元の人と丹波工場を大きくしていきたい。デザインに興味があり、明るく元気な若者と一緒に働きたいですね」と話しました。

★取材を終えて

大阪からIターンされた湯浅工場長にまちの魅力をお聞きしたところ、「見ず知らずの人からも挨拶していただき、温かい人が多いです」と、にこやかに話しをされました。

わが社のきらめく「丹波人」

学生時代にデザイン関係の勉強をしていたという長田頌子（ようこ）さん（31）

「丹波市は田舎過ぎず都会すぎず、とても住みやすいところです」と話すのは、田舎暮らしに憧れて大阪から夫とIターンされたデザイナーの長田さん。丹波市でデザイン職の求人を見つけたことがきっかけで同社に入社されました。「自分の腕を磨き、よりよいデザインをつくっていきたい」と抱負を話してくれました！

インクジェットでデザインを出力し、プリントします（写真右）

「PROX加工」により、デニムにも昇華プリントすることが可能です！（写真左）